

復興とは？

関西学院大学
災害復興制度研究所
室崎 益輝

はじめに

- 観念的な論議、抽象的な論議に陥らないこと
「よりよき復興??」を達成するために、「復興のあり方」を議論しようとしている
実態に即して、実践の立場で、具体的に考えること・・・実態から本質に迫ること
実態を踏まえない論議は、言葉の遊びになる

復興の目的

- 何のための復興か、誰のための復興か？
ここが一番大切なポイントである
HOWの前に、WHYやWHOが問われる
- 「人間復興」は、極めて重要なキーワード
都市や経済の復興の前と後に、人間の復興がある
WHATは人間を中心とした社会システム

復興の性格

- 1つの社会運動あるいは地域創造であるが、他の運動や創造とはどこが違うのか？

(1) 破壊や疲弊からの出発

破壊の責任と反省、能力の喪失と開発

(2) 時空間制約を伴う複雑系システム

連鎖や交換のプロセスを大切にする

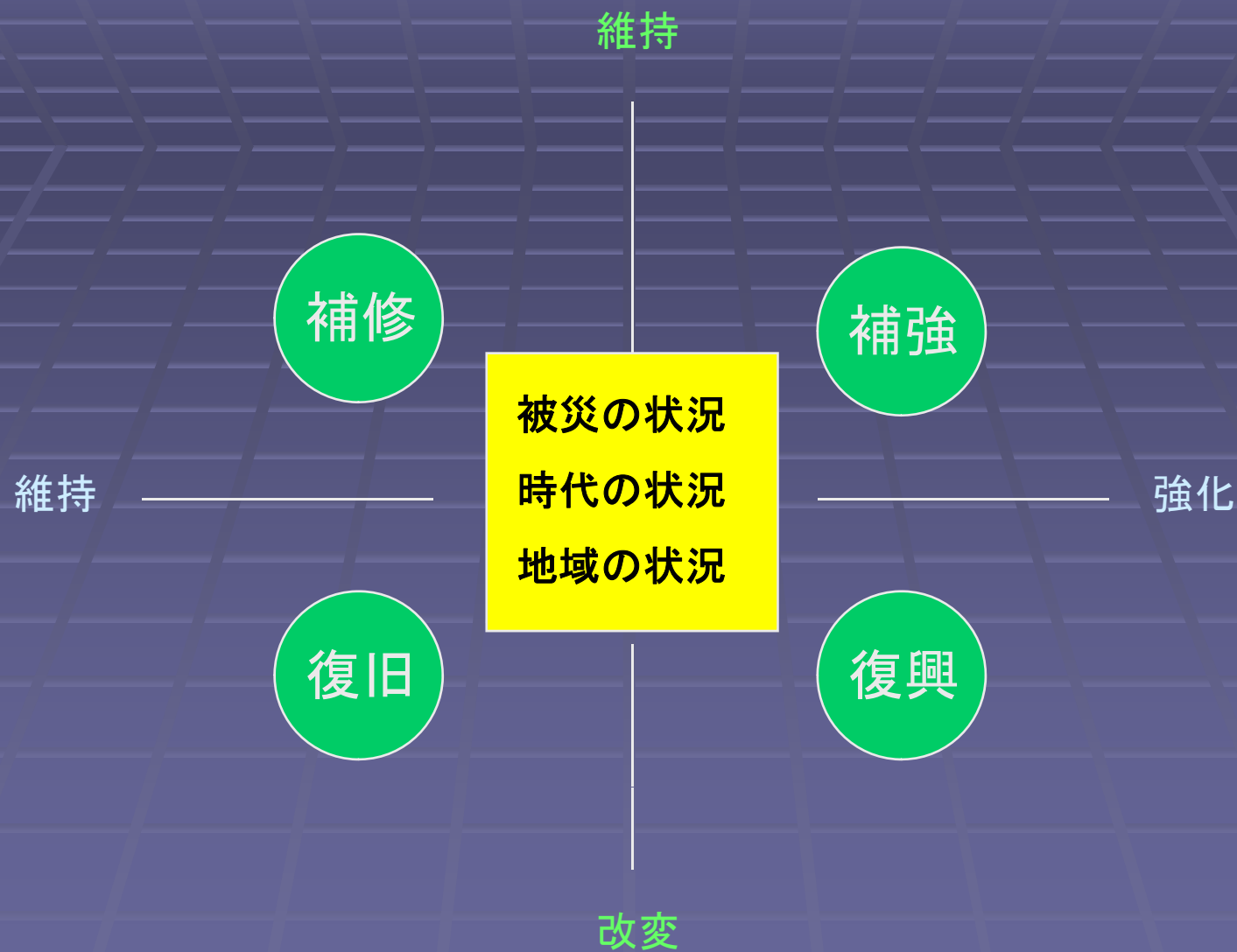
(3) 減災サイクルの1つの過程

..どこが同じなのかという視点も大切

復興の類型

- 被災の状況と時代の状況さらには地域の状況に応じて、復興⁽¹⁾のベクトルが与えられ、その大きさと方向によって、復興⁽²⁾、復旧、補強、補修の4つの類型に区分される
 - ・ どの方向を選ぶかは、重要な政策選択
 - 構造欠陥による大規模な被災の場合に復興⁽²⁾を選択
 - (1) 広義の復興・被災からの機能回復の運動
 - (2) 狭義の復興・大変革を伴う機能回復の運動

復興ベクトルの質と量による類型



参考 原形復旧、改良復旧、原形復興、改革復興

復興の視座

- 社会の歪みが災害によって炙りだされるという時代の状況を踏まえるならば、社会構造の変革を視野においた復興への挑戦が避けられない・・・復興のHOWを考える
 - (1) 歴史性と地域性の継承
 - (2) 持続性と共生性の追求
 - (3) 自立性と自治性の尊重

復興のプロセス

- 復興のプロセスにおいては、包括性、連続性、補完性、共創性、戦略性、変革性が要求される…それは、なぜか？

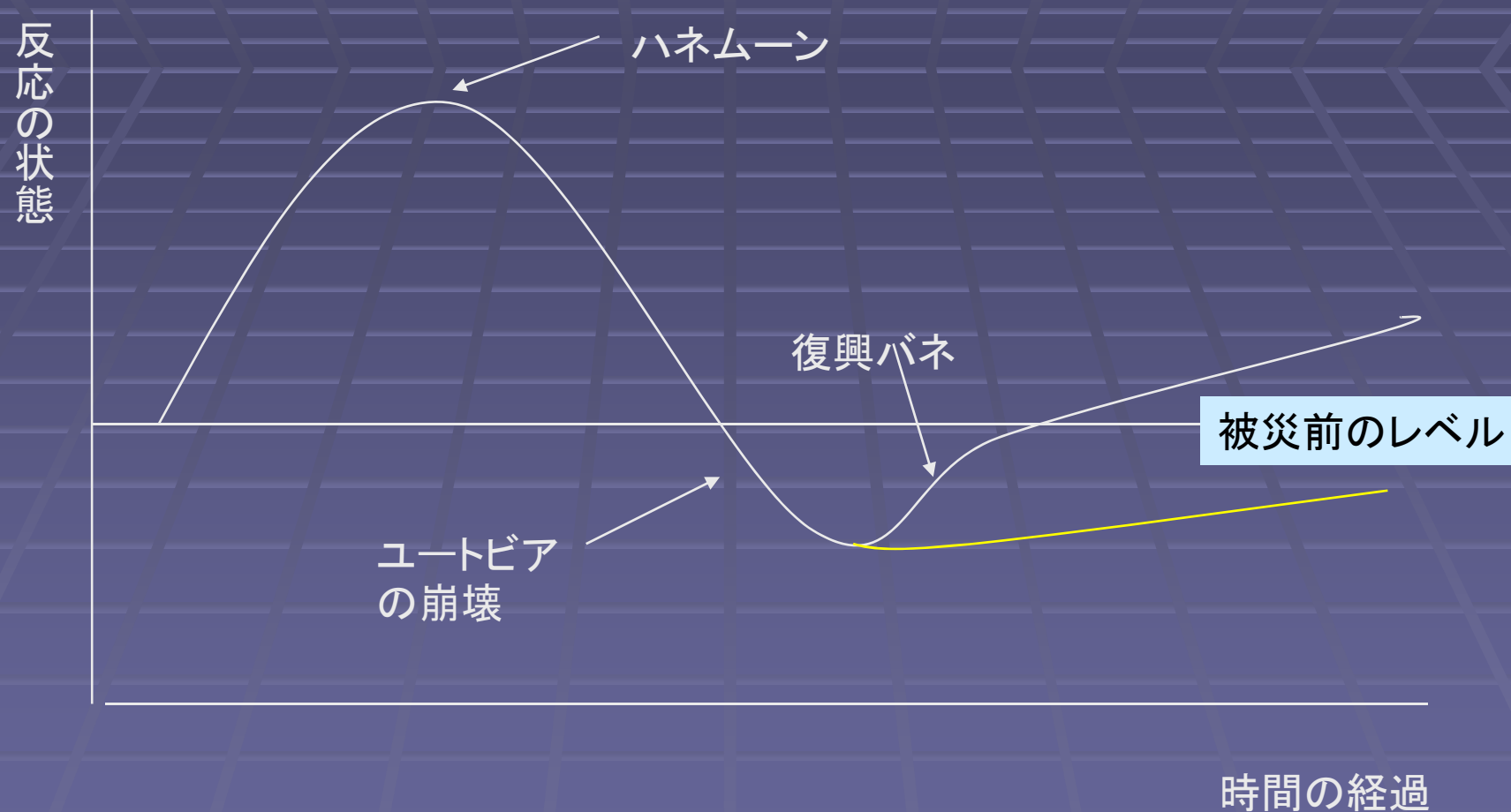
復興の手段や経路を固定的に考えないこと

(1) 復興のバネをいかに働かすか？

(2) 総論と各論、応急と恒久、被災者と被災地の連続性をいかに確保するか？

ラファエルのモデル(1986)、葉躍先のモデル(1991)

復興プロセスのモデル



ラファエルの災害反応の経過

復興のインフラ

- 復興を支えるインフラ(社会的な仕組み)をどう構築するか？
 - (1) 復興の制度
 - (2) 復興の資源
 - (3) 復興の体制
 - (4) 復興の理論